

NEWS (PRESS) RELEASE

令和6年1月27日
志摩市消防本部 消防総務課

消防活動高度化推進事業

最先端の救助支援システム『3rd-EYE』の実装訓練を実施します

志摩市消防本部は、情報収集を行う消防隊員の安全確保のほか、災害現場の状況把握を迅速かつ効率的に行うことを目指し、「スマートグラス」・「AI」・「ドローン」の融合による最先端の救助支援システム『3rd-EYE（サードアイ）』を導入し、消防活動の高度化を図ります。

『3rd-EYE』は、志摩市、志摩市と「自治体のDX推進に関する連携協定」を締結しているソフトバンク株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員 兼 CEO：宮川 潤一）、『3rd-EYE』の開発を手がける株式会社ロックガレージ（住所：茨城県古河市、代表取締役：岩倉 大輔）との連携により、「デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ TYPE1）」を活用して導入します。

また、『3rd-EYE』の導入にあたり、水難救助を想定した、『3rd-EYE』の実装訓練を下記のとおり実施します。

記

- 開催日時 令和6年12月10日（火） 13時30分から14時30分
※天候（風雨の状況）により延期する場合があります。
延期の判断は12月9日正午に行います。
※延期の場合の予備日：翌11日（水）13時30分から14時30分
- 開催場所 次郎六郎海水浴場（志摩市大王町船越（ともやま公園内））
※取材関係者の方は、駐車場がございますので海水浴場までお越しください。
- スケジュール
13:30 実装訓練概要説明
13:40 実装訓練
訓練の様子のほか、指揮隊タブレット画面（ドローンからの映像・AI解析映像等）をモニターでご覧いただけます。
14:10 市長講評
- 実装訓練の概要（想定シナリオ）
次郎六郎海水浴場にてカヤックツーリングを行う一般の方が落水。落水に気付いた同行者が周辺を搜索するが落水者が見あらず、志摩市消防本部へ緊急通報を行う。
現場に到着した消防隊員が、ドローンによる搜索を開始するとともに、スマートグラスを装備した消防隊員も海水浴場沿岸に分散し、陸上から搜索を行う。
ドローンによる上空からの映像は瞬時にAIで解析され、落水者と思われる物体を判別し、指揮隊のタブレット及びスマートグラスに共有される。
共有された判別映像を基に、指揮隊及びスマートグラス装備隊員が、落水者の位置を特定。特定された位置へ救助艇が向かい落水者を救助する。救助艇にはスマートグラスを装備した隊員も乗船し、スマートグラスの位置情報機能やカメラ機能を活用し、指揮隊と連携しながら救助にあたる。

5 『3rd-EYE』について

「3rd-EYE（サードアイ）」は、ドローン、AI、スマートグラスを組み合わせた新世代の情報共有システムです。ドローンのライブ映像をAIが自動解析し、検索対象（人）の位置を特定、指揮本部に設置されたタブレットや隊員が装備するスマートグラスにその位置情報・映像情報を表示します。また、現場で活動する隊員の視野も映像として指揮本部や隊員同士で共有することが可能です。このシステムを利用することで、指揮本部は映像を確認しながら隊員に指示したり、デジタル地図を用いて目的地を指示したり、ドローンによって発見された要救助者の状況をリアルタイムに確認することができるようになります。これによって、より直接的に現場の状況把握が可能となり、現場指揮がはるかに正確かつ効率的になります。



スマートグラスを着用した隊員



AIが発見した人影



スマートグラス画面

6 参加者 計30名

(内訳) ソフトバンク株式会社、株式会社ロックガレージ
志摩市長
志摩市消防長、志摩市消防本部職員

連絡先	志摩市消防本部 消防総務課 担当：山下 TEL：0599-43-1418 FAX：0599-43-1423 E-MAIL：syoubousoumu119@city.shima.lg.jp
-----	--